

The 2 Chome Times 2023年11月号

NO1のプレミアムストリートをめざして

NO306号

2023年・11月・25日



発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムス11月号

編集：企画・商業振興部、編集長：井上晶雄 <http://www.centergai2.com> E-mail:centergai2@nifty.com



フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>



2丁目目でKOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

★青森秋の研修旅行 青森、下北半島

今回、センター街2丁目秋の研修旅行は11月8日から10日まで青森県で斗南藩の軌跡をたどる3日間でした。



恐山六体地蔵



初日は神戸空港から青森空港まで約120分間の空の旅で、お天気に恵まれ揺れもなく快適でした。さすが2丁目、お天気も味方です。バスで市内に移動してまずは青森県庁へ表敬訪問へ。久元神戸市長の親書をお渡しする訪問です。県庁訪問が終わり、バスは一路下北半島へ。移動中のバスの中でガイドさんより斗南藩についての案内がありました。夕方日も暮れて漸くむつ市に到着。明日はいよいよ斗南藩のゆかりの史跡をめぐる。2日目は斗南藩會津会：会長坂部様が、バスに乘車して斗南藩の史跡（円通寺、柴五郎居住跡、旧斗南藩士の墓）などを巡りました。旧藩士のお墓は、7体の骨が発見されのちに斗南藩追悼の墓を建てたそうです。会津との関わりを知った会津高校が修学旅行にこの地を訪れ、生徒が白虎隊の踊りを奉納したという素晴らしい話を聞きました。斗南藩の方々の不屈の精神を学ぶ史跡巡りでした。その後、バスは霊場恐山を経て昼食会場へ移動。昼食は有名な大間のマグロ丼を頂きました。その後、青森が生んだ世界に誇る版画家棟方志功館へ移動しました。力強い作品を見学し庭園が美しい館を散策して夕方青森ホテルへチェックイン。最終日は、世界遺産・三内丸山遺跡を訪問。縄文時代、約5900年から4200年前にかけて長期にわたり定住生活が営まれた日本最大級の集落跡を史跡ガイドの案内で50分探索を楽しみました。昼食は、縄文人も食べたであろう食材を使った縄文定食を堪能。斗南藩といい縄文人といい現代人とは違い、知恵と工夫で逆境を乗り越えて行く精神を感じた青森の旅でした。旅の安全と進行を気遣って頂いたツーリストイン神戸の吉田様をはじめ今回の有意義な旅を計画してくださった皆様ありがとうございました。次回の旅行が今から楽しみです。皆様も参加されませんか！



三内丸山遺跡

★クリスマス恒例 小磯記念美術館タペストリー

毎年クリスマスシーズンの恒例となりました「小磯記念美術館」のタペストリーが11月1日に掲出されました。開催中の特別展のお知らせをクリスマスシーズンに合わせてアレンジしていますが、商店街のクリスマス装飾も兼ね合わせたものとなっています。今年は水色とピンクのポップな色使いで明るいクリスマスを演出。展示のテーマが「働く人々」で「働く人」表現した作品の中から、終戦より今日に至るまでの、美術家達の多様な試みを紹介します。画家の関心や社会状況を反映し、時に切々と、時にユーモアを持って表現された働く人の姿を通して、「働くとは何か」を問い直したいと思います（小磯記念美術館HPより一部抜粋）。



楽しいクリスマスムードの街で、アートを通じて、「働く」ということを考え直してみるのもいいかもしれませんね。

特別展「働く人びと 働かってなんだ？ 日本戦後／現代の人間主義（ヒューマンイズム）」

会期：2023年10月7日（土曜日）～12月17日（日曜日）詳細は小磯記念美術館ウェブサイトで！

<https://www.city.kobe.lg.jp/kanko/bunka/bunkashitsu/koisogallery/index.html>

★インフルエンザ予防接種

今年も例年通り、センター街2丁目商店街振興組合では各組合員の皆様にインフルエンザ予防接種と更にコロナワクチン接種、そして希望者の方にはその両方を明芳病院の鄒（ツウオ）先生の御協力でセンタープラザ西館で実施しました。11月2日は64名、11月6日は41名で、計105名の方が接種されました。両方のワクチンを接種された方は10名で、筆者もその内の一人でした。鄒先生が接種されていらっしゃるご様子は、いつもハキハキされていて、御指示や受け答えも的確且つ迅速で、とても頼りになる姉御肌タイプの先生です。しかも先生の技術が素晴らしく、殆ど痛みも感じませんでした。インフルエンザワクチンの接種は成人では一度で有効とされていますが、1、2月がインフルエンザの最流行期ですので、絶対に罹患できない方は来年明けにもう一度打つことも選択肢の一つです。来年以降もこのワクチン接種は組合として続けて行きますので、今年は受けられなかった方も、来年は是非接種されることをお勧めいたします。



★宮崎県はかつて鹿児島県だったの！？ 今月の勉強会

11月11日に行われた定例の勉強会では宮崎市教育委員会文化財課の井田課長をお招きし、宮崎県の成



安井息軒

立に尽力したお二人の偉人についての講義をして頂きました。実は明治6年(1873年)に置かれたばかりの宮崎県は3年後の明治9年(1876年)に鹿児島県に合併されてしまいました。その背景は明らかではありませんが、歴史の本でよく目にする大久保内務卿(大久保利通、旧薩摩藩士)にしてみれば「日向(宮崎)は薩摩の属地」ぐらいの考えしかなかったようです。しかしながら宮崎市清武町出身で幕末を代表する儒学者である安井息軒(1799~1876)と彼に多大な影響を受けた同じく宮崎市清武町出身の政治家、川越進(1848~1914)が尽力し明治16年(1883年)に宮崎県が再置されます。川越進は明治10年に起きたあの西郷隆盛が主役の西南戦争に消極的ながら従軍しましたが、明治13年(1880

年)に鹿児島県会議員になって後に、宮崎県分県に向けた絶え間ない努力を続けた結果でした。実は川越進をはじめ宮崎県再置に影響力を及ぼした秋月種樹(アキヅキタネタツ)、三好退蔵、渡辺昇といった多くの人物は安井息軒が開いた私塾「三計塾」の門下生でした。安井息軒は幼少の頃、天然痘に罹り、片目がつぶれた容貌になりながらも父の影響を受け学問を目指し、後に江戸に移住して苦勞しながら、私塾「三計塾」を開きました。彼の門下生は推測では全国に2000名余りと言われ、彼の教育力の高さはずば抜けていました。宮崎県が再置されて今年で140年になるそうですが現在の宮崎県は安井息軒、川越進らがその礎を作ったのは間違いありません。



川越進

★編集後記

今月の勉強会でテーマになった安井息軒が苦勞しながら学問に励み立身を志し、最終的に幕府の御儒者になりましたが、やはり偉人には凡人が真似の出来ない逸話があります。若くして江戸に出て、寸暇を惜しんで儒学の本を読み書きしながらお金を無駄にするまいと毎日、醤油と塩で煮詰めた大豆をおかずにご飯を食べていたそうです。そんな息軒は当然、衣服も粗末なままで、それを観た学問所(昌平坂学問所)の仲間が馬鹿にしますが、そんな彼らが息軒の部屋に入ると次の様に書かれた紙がありました。

ね ほととぎす なの
今は音を 忍々岡の杜鵑 いつか雲井のよそに名乗らむ

意味は「今はひっそりと勉学に打ち込んでいるが、いつかホトトギスのように空高く舞い上がり、天下に知

られるようになりたい」というもので、その志の高さ、意志の強さに、嘲笑していた彼らも押し黙ったそうです。日頃、自身の才能の無さを嘆いている私ですが、これらの逸話からやはり自分には「努力・我慢」が足りないと反省する良い機会となりました。

美しい街 共に歩む ビルメンテナンス

つるかめ管財株式会社 078-371-3589

